

東電パートナーズは、メイン事業の一つである通所介護(デイサービス)部門に注力し、大きな成果を上げている。同社は現在、「東電さわやかデイサービス真間」(千葉県市川市)をはじめ計8か所のデイサービス事業所で地域に根差したサービスを展開しているが、同部門の収益拡大を目指して昨年6月、福住尚将・介護事業運営G副統括長をリーダーとする「デイサービスV字回復プロジェクトチーム(P.T)」を発足。P.Tメンバーが各事業所に1週間程度常駐し、業務内容や職員のシフト体制から勤務時における行動パターンまでを詳細に分析し、その上で「具体的な裏付けがある優良介護サービス手法に基づく業務改善」(福住氏)を全店大で進めた。これに加え、全職員に対してコスト意識の徹底を図ることで「最少人数でサービス品質を大幅に向上させる」ことにも成功した。

また、こうした意識改革と並行して、現場職員の声を積極的に採用。この結果、オリジナルの歩行訓練器具「ゆつくりステップPCバージョン」の開発(現場スタッフの意見を製品仕様に反映)にもつながった。同器具は現在、3事業所に導入して好評を博している。さらに同業他社との積極交流による業務力の向上や職員教育にも力を注ぎ「職員各人が経営者感覚を身に付けることで経営基盤の安定とサービス品質の向上につながった」という。こうした種々の業務改善の結果、同社は09年度実績で8事業所全ての黒字化に成功。現在はさらに新たな取り組みとして、専用マッサージルーム(デイサービスの一環としてのマッサージとは異なりマッサージに特化した専用室)の設置も来年1月中を目処に予定しており、業績のさらなる拡大を目指す。